

桜蔭講評 (各問題の講評は後半に載っています)

毎年男子校に負けにくいくらい東大理科3類の現役合格者を輩出する、桜蔭学園中学。

今年は例年以上に、大部分が思考力を問われる問題でした。それと同時に、例年通り長文の意味をくまなく読み取ることを含め、計算や処理が早く正確にできるかも要求されており、出題傾向が変わらない中では、男女も含めて関東圏内の私立でもっともタフな試験と言えるでしょう。

それでは、各問の講評です。

#### 大問1

問題文を正確に読まないとうっかり間違えてしまいそうな、難度の高い小問集合。

#### 大問2

- (1) 平面図形を題材にした、有理数に拡張されたつるかめ算で、良い問題ではありますが計算がやや煩雑です。
- (2) 麻布の大問3と同様、今年の中学入試を代表する「場合の数」の問題です。  
「こういう基準で数えれば全て数えられる」という基準を見つけること自体も最高レベルの難易度で、対称性を考慮し正しく数えることにも、高度な平面図形センスが問われます。

#### 大問3

3つの店舗の売り方を考慮し、最もコストが少ない買い方をはじめ、店舗をまたいで様々な購入方法を検討する実生活に根ざした問題です。ほぼ同様の問題は見たことがなく、今年の整数問題を代表する良問とも言えます。

「要するにものすごくたくさん買うならA店ではほぼ2割引きで買える、  
B店だと、キリがいいと約16.6%引きで買える、  
C店だと、一律8%引きで買えるが、  
数がそこまで大きくなかったり、A店やB店で買うキリがいい数かによって、得な購入方法が変わってくるのだな」  
といったように、それぞれの店の特徴や出題者の意図を汲み取れると、解きやすくなります。数値も絶妙な設定で充てられています。

#### 大問4

底面積が高さによって変化する水槽の問題は、超難関校によくある出題ですが、水槽の中にある重りが上に一定速度で上がったり、問題後半逆に下がったりと、桜蔭ならではのひねりが加えられています。落ち着いて考えれば解ける問題ですが、計算が非常に複雑で、受験生泣かせの一問であったでしょう。